

患者が ケアを 求めるとき

妻の病床日記

森 文彦

FUMIHIKO MORI



近代文芸社

患者がケアを求めるとき
妻の病床日記



森 文彦
FUMIHIKO MORI

近代文芸社

つま びょうしやうにつ き
——妻の病 床 日記——

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

まへがき

ある年の正月、年賀状に交じって一通の手紙が届きました。七階病棟で痛み治療を受けている患者さんのご主人からの便りでした。奥さんの長い病院生活が終わり、暮れ近くに、やっと退院に漕ぎつけて、家族揃って正月を迎えてほっとした気持ちを伝えてくれました。

手紙には「家内の痛みは和らいで、音楽やテレビを聞いたり見たりして心を慰めているようです。私もまた音楽好きですから、夜は『名曲の夕べ』となり、妻も音楽を聴きながら薬が効いてきていつの間にかうとうと眠ってしまいます」とも書いてありました。その後、奥さんは再入院してこれ、半年程で亡くなりました。

一カ月後のある日、ご主人は私の部屋に三冊の手帳を脇に抱えて訪ねてこられました。久し振りの挨拶もそこそこに、奥さんが亡くなった後、筆笥を整理していたら見つけたという奥さんの闘病日記に「先生のことが書いてあるので、良かったら読んで頂きたい」と言ってわざわざ届けてくだ

さいました。

この記録は痛みが一旦取れて、外泊してもよいと主治医から言われ、正月、自宅に戻るまでの闘病生活を記したものであって、病気の妻と夫の心温まる交流が生き生きとして描かれていました。またまた畳み掛けるように、膝に日記をおき、「長い看病生活が続き、私には妻の死はなかなか受け入れられません。日々の生活目標は失いがちで、立ち上がれません。私も息子も死んだも同然です」、また「妻が意識を失いかけた頃、痛みのためでしょうか、全身に痙攣が起こったのには随分びっくりしました。主治医から色々説明を受けたものの今でも納得はできません」とも漏らし、メガネの奥の厳しい眼差しを残して、悄然として帰られた姿は私の脳裏から長く離れないままでした。それから三年間以上も音沙汰がありませんでした。久し振りにご主人から便りがあり、「私と息子は少しずつ元氣を取り戻しました。妻の看病の体験から私は今、この年になって終末医療の勉強を始め、ターミナルケア研究会や講習会にも参加させてもらいました」と記して、死別の悲嘆プロセスを乗り越えて、自己の新しいアイデンティティを見出した様子が窺えました。そういえば、電話相談にボランティアとして挑戦し、公開講座などを通じて自分の貴重な看病体験を医療スタッフに呼びかけて、もっと患者の訴えを聴いて欲しい、痛み治療は治すことが出来ない患者にどれほど大切かを理解して欲しいと訴え、大きな感銘を与えました。

本書には若いお二人の出会いの頃から悲しい奥さんの死という体験を通し、それを厳粛な事実と

して徐々に受け入れて、勇気を持って新しい人間関係の再構築にエネルギーを振り分けた長い歴史が込められています。

平成八年六月三十日

聖路加看護大学（大学院）教授 水口 公信

患者がケアを求めるとき——妻の病床日記／目次

まえがき

第Ⅰ部 がん

一、ボクたちの日記

情熱の書 19

早期発見を逸す 21

大学病院へ 24

病状経過 28

死生観 29

二、最初の入院

病床日記 31

何か固いものが 36

偽りの日記 41



三、手術

悪夢の三日間 45

急遽、再手術 48

抜糸 52

回復 54

人工肛門 57

洗腸療法 61

四、退院

血清肝炎 65

もとのお尻に戻りたい 69

チョンが涙をすすりに来る 74

胆石みつかる 79

「健康感謝」にこだわる 82



五、がん再発

お尻が痛い 85

アベックで何年振りか 89

大学病院、身の毛がよだつ

恐怖の検査 96
92

やっぱり切りましょう 103

六、二度目の手術

痛い痛い 107

いつまでも痛くて 111

先は明るい 114

ハカラレタカ 118

ワイイ！退院だ 120



七、三度目の入院

ぶきみな痛み 124

増殖性肉芽 127

治療も期待できない 131

骨がバラバラに 134

第II部 大学病院

一、大学病院の役割

教育、研究、臨床 141

ドクター語録 147

インフォームド・コンセント 153



二、痛みは無理解

逃げ回る

155

エイリアンが

160

よく焼けたな

164

三、洗滌入院

涙でシヨツパイ夕食

168

たまらなく恐怖

174

思わずおもらし

178

麻酔科に期待

182

前の橋から渡れ

186

四、医療への不信任感

治療の強行

189



また入院を決心 193

モンモンとのた打って

196

五、最後の入院

日記はもうダメ 202

エイリアンを見た 206

I V H、もうヤケクソ 210

痛みが陣痛のように 214

第Ⅲ部 ケア

一、ペインクリニック

四つの痛み 221

痛くないとはこういう事か

222



夜が怖くない

229

ブロンプトンカクテル

233

二、自然治癒力

雛に餌を運ぶ親鳥

239

自然観察

246

三、ケアマインド

死の医学

250

退院のケア

252

外来のケア

255

家族のケア

257

家族のターミナルケア

264



四、看護の重要性

看護のプロフェッショナル

ナースの看護

274

270

第Ⅳ部 グリーフワーク

一、妻にとって「死」とは

娘の頃の「死」

285

同室患者の「死」

290

二、伴侶を亡くした悲嘆

悲嘆に明け暮れ

298

のろい歩み

304



新しい価値観

310

三、ボクのグリーンワーク

グリーンワークとは

314

二本の曲線

316

悲嘆と浄化の波動

319

今、ボクは

323

あとがき

略歴

